

キラリ★ 話題の「ひと」



じゅうきち
縫田 重吉さん
(牧町)

○プロフィール

佐野市農業委員会
農地利用最適化推進委員
上牧の環境を守る会 代表

恩返しの日を

親

しみやすい温かな笑顔で話をする縫田さんは、現在、農地利用最適化推進委員、上牧の環境を守る会の代表として活躍されています。

常盤・氷室地区をパトロールし、遊休農地や耕作放棄地を見かけると、佐野市に相談したり、その土地の持ち主に声を掛けたりするそうです。土地の持ち主が手入れできない場合、縫田さん自らが草刈りをしたり、地元の農業法人に話を持っていき、土地をきれいにしてもらったりすることもありますが、そうではありません。

縫田さんは、街道もきれいにしておこうと心掛けています。年に何回か、地元の人に声を掛け、1日に3、4時間、5〜6人で田畑や街道の草刈りをしているそうです。

町会では、花を植えることもしているそうです。縫田さんは「草を生やさないように、みんなが土地を大事にすることで、昔から土地を残してくれた人たちに恩返し

をしていきたい」と話しています。

今まで農地利用最適化推進委員や、上牧の環境を守る会の代表をやつてこられたのも、声を掛けるとすぐに集まってくれる人が周りにたくさんいるからだということでした。縫田さん自身も、近所の人から草刈り、機械の修理、竹の伐採などで声が掛かり、頼りにされているそうです。「みんなに大事にされてきたことを忘れずに、これからも困っている人を助けたい」と話していました。

(市民記者 尾島民江)



市長からの

メッセージ

新年度になりました。入学、入社など新たなスタートを迎えた皆さんおめでとうございます。新しい環境に早く慣れ、夢や希望に向かって進んでください。

さて、先月の市議会において、令和3年度の一般会計ほか、各特別会計、公営企業会計予算を承認いただきました。一般会計予算額は前年度比15億7千万円増の501億2千万円で、合併後2番目の予算規模となりました。

予算編成に当たって、令和元年東日本台風からの復旧・復興、そして防災・減災、国土強靱化に向けた取り組みと、コロナ禍における市民の皆さまの安全・安心の確保の2つを最優先事項としています。

新型コロナウイルスに係る主な事業では、今後予定されるワクチン接種に関する予算を計上したほか、感染拡大防止対策としての各種検査や施設などへの消毒、事業所などへの緊急景気対策事業に対し計上しました。

その他、現在コロナ禍において、東京一極集中から地方が見直されていますが、第2期佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略を踏まえ、首都圏からの移住・定住を推進する契機とし、人口減少克服や地方創生に向けた予算編成となっております。

これらの予算のもと、新年度が大きな意味での佐野市の復興の年となり、希望の持てる1年となりますことを願います。春本番となり、花見やお祝い、歓送迎会などの季節となりました。これまでの緊急事態宣言時での皆さんの努力を無駄にしないため、もうひと踏ん張りです。感染拡大防止に向けて改めて皆さんのご協力をお願いします。(3月16日 記)





20年後のわたしに贈る

昨年のクリスマスに、わが家に3通のハガキが届きました。私と子ども2人が未来の自分宛てに書いたものでした。

2000年5月5日、佐野市こどもの国は開館記念として、20年後の自分にハガキを送るイベントを実施しました。イベントまでに5,991通のハガキが書かれ、そのハガキは館内ロビーのロケット下のタイムカプセルに保管されました。そして20年が経ち、2020年5月5日のこどもフェスティバルでタイムカプセルを開封予定でしたが、コロナ感染拡大で実施できず、職員さんたちにより開封され、仕分け作業を経て、クリスマスに発送されました。

しかし、住所不明などで戻ってきたハガキが約1,500通あります。ハガキを書いた記憶はあるが届いていない方、また、こどもの国から届いたハガキに心当たりのない方は、こどもの国に問い合わせてみてください。きっと20年前のあなたに会えますよ。 (市民記者 永倉文字)



極真空手全国大会入賞報告

極真空手の全国大会「2020極真祭」に出場した、国際空手道連盟極真会館栃木南支部佐野道場の町田将真選手(界小学校5年)と小林龍生選手(界小学校6年)が、2月12日(金)に市長へ大会結果の報告をしました。

同大会は昨年11月28日(土)に東京都調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザで開催され、町田選手は10歳男子35kg以下級トーナメントで準優勝を、小林選手は11歳男子40kg以上級トーナメントで第3位に入賞しました。

町田選手は「優勝できなくてくやしい。将来は世界を目指したい」と、小林選手は「決勝に行けずにくやしいが入賞できたことはうれしい。後輩に自分の技を教えていきたい」と力強く今後の意気込みを話してくれました。町田選手、小林選手、おめでとうございます。



佐野弁
ばんたい

からだにまつわる
特徴的な方言のかずかず

・やわらかくて細長い毛をモクタツケという・

目の上にはまゆげ(まいげとも)があります。このまゆげを方言でマミゲまたはマミヤといいます。これらの方言は古くからあるものですが、昭和のころまで多くの人が使っていました。でも昭和の終わりごろになると、マミヤもマミゲも使用する人がだんだん少なくなり、今ではほとんどまゆげというようになりました。おとなになってもえり首などに、幼児の産毛うぶげのような、細くてふわふわした毛が生えます。この毛を方言でモクタツケといいます。

膝頭ひざかしらは別名、膝株ひざかぶ、膝こぶし、膝小僧ひざこぞうなどともいいます。方言にも、ヒザンボ、ヒザンボコ、ヒザツコ、ヒザツコブ、ヒザツカブのようにいろいろな呼び名があります。これらの方言を見て思うに、昔の人は膝頭の形から感じたものを素直に表現したものだと感じさせられます。

出額でびたいが訛なまったデビテは、かつてはデボといいました。デボは出ているところという意味です。このデボはすでに死語となってしまうました。指先の爪の生えぎわの皮膚が、特に冬の寒季節になると、細く裂けて逆立つことがあります。裂けて逆立った細くてかたい皮膚をサカサズメとい、略してサカサともいいます。

「サカサズメがたつてると知らネデ、靴下をはくべとしたり、サカサズメがひつかかってイテー(痛い)からさっそく切り取ったつたよ」

(市民記者 森下喜一)

